

# ウィードコア™ 1キログラム粒剤

■種類名：フロルピラウキシフェンベンジル・ペノキススラム・ベンゾビスクロン粒剤  
 ■有効成分：フロルピラウキシフェンベンジル-----0.40%  
 ペノキススラム-----0.50%  
 ベンゾビスクロン-----2.0%

■登録番号：第24389号(がう・アグロケム日本登録)  
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)  
 ■登録初年：2020.5.13  
 ■性状：類白色細粒  
 ■有効年限：5年  
 ■包装：1kg×12袋

## 【特長】

- ノビエ等の一年生雑草から多年生雑草まで、幅広い草種に有効な水稲用中・後期除草剤。
- 新規有効成分フロルピラウキシフェンベンジル(通称：リンズコア)を含み種々の抵抗性の雑草にも有効。
- 移植後15日～ノビエ4葉期まで使用できる。

## 【適用内容】(2020年5月末日現在)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	水田一年生雑草 及び 多年生広葉雑草	移植後15日～ノビエ4葉期 但し、収穫60日前まで	1kg/10a	2回以内	湛水散布 又は 無人航空機 による散布

フロルピラウキシフェンベンジルを含む 農薬の総使用回数	ペノキススラムを含む 農薬の総使用回数	ベンゾビスクロンを含む 農薬の総使用回数
3回以内	2回以内	3回以内

## 【効果・薬害等の注意】

- 使用量にあわせ秤量し、使いきること。
- 多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。クログワイは草丈20cmまで、コウキヤガラは草丈20cmまで、シズイは草丈20cmまで、ホタルイ、ウリカワ、ヘラオモダカは4葉期まで、マツパイは増殖期まで、ミズガヤツリは5葉期まで、オモダカは草丈30cmまで、セリは再生盛期まで、ヒルムシロは発生盛期まで。
- 前処理剤との体系で使用し、雑草の発生状況をよく確認し、時期を失しないように散布すること。
- 苗の植え付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- 散布に当たっては、水深3～5cmの湛水状態で田面に均一に散布すること。水の出入を止めて、少なくとも3～5日間はそのままの湛水状態を保ち、田面を露出させないように注意すること。散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、止水期間中の入水は静かに行うこと。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意を守ること。
  - ◆ 散布は散布機種種の散布基準に従って実施すること。
  - ◆ 散布に当たっては散布機種種に適合した散布装置を使用すること。
  - ◆ 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整すること。
  - ◆ 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m離れた位置から圃場内に散布すること。
  - ◆ 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
- 散布後に多量の降雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
- 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - ◆ 砂質土壌の水田および漏水田(減水深2cm/日以上)
  - ◆ 軟弱な苗を移植した水田
  - ◆ 極端な浅植の水田および浮き苗の多い水田
  - ◆ 稲の根が露出している水田
- 本剤の使用後に低温が続くと予想される場合には、稲に生育抑制などの薬害が発生するおそれがあるので、使用をさけること。
- 処理後数日間著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。

- 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意すること。いぐさ栽培予定水田では使用しないこと。
- 葉害を生じるおそれがあるので、周辺作物にかからないよう十分注意すること。
- 本剤散布後の田面水を他作物に灌水しないこと。
- 空袋等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないよう注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。  
作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。  
無人航空機による散布で使用する場合は、河川、養殖池等に飛散しないよう特に注意すること。
- ❖ 保管：直射日光をさげ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。